

授業句会の実践から見るN e t 句会の構想

A proposal of Haiku meeting on the net reference to the
practice of Haiku meeting lesson

松永 公廣

KIMIHIRO Matsunaga

摂南大学

SETSUNAN University

濱野 正美

MASAMI Hamano

明石工業高等専門学校

Akasi Techonological College

1 はじめに

現代社会では自分を表現し他者との意思の疎通をはかるコミュニケーションがこれまでよりも重要といわれている。コミュニケーションは、複数の人が言葉や記号や図表を通して「ある考え」を共感する複雑な過程である。その過程では、自己の考えを表現して伝達し、他者の反応を見て意味を解釈し、自他の認識の差を埋めるための調整を繰り返すと考えられる。

インターネットは、時間、空間を超えて情報の発信と受信が容易なコミュニケーションの道具と位置づけられ、まだ経験したことがない情報文化を生みだそうとしている。我々は、好むと好まざるに関わらず直接向かい合って会話しなく方法でコミュニケーションをとるネット社会に直面している。現実社会の根底は人間関係である。ではそのネット社会での人間関係は、どのようにはぐくまれるのであろうか。多くの人は、ネット社会で他者とどう向き合ったらいいいのか雲をつかむ様な感じを持っているのであろうか。時にはネット社会のメッセージの背後にある人間存在の希薄さを感じ対応に困ることもあるのであろう。

インターネットでは日本の伝統的文化である俳句に関するサイトもある。これまでも俳句は、新聞、雑誌、そして放送などのメディアでも取り上げられ、多くのひとが共感する機会となってきた。日本人は、句を読む対象や読み方に関してある程度の知識を共通に持っているため、投句をしたり、メディアを通して選句された結果を読んで共感することができた。したがってインターネットで句会を開催すれば従来とは異なった自己と他者の関

係を確認する経験ができると考えられる。すなわちN e t 句会は、俳句を通した新しいコミュニケーションを経験できる場として、そしてコミュニケーションの基礎となる他者存在の確認の新しい場として機能する可能性があると考えられる。しかし直接向き合うわけではないN e t 社会の人間関係の不確かさは避けられないため、ネット社会のコミュニケーションの確かさを高める研究に取りかかる時期にきている。その一端としてN e t 句会の構想を取り上げる。

それに関する興味ある事例として須曾野、下村¹⁾らは、中学校で俳句を素材とした「芭蕉データベース」の活用・実践から、総合的な情報処理過程を体験することが情報教育に有効であること、生徒は教師より仲間が入力した情報に対して興味を示すこと、そしてメッセージ交換を望んでいるという報告がある。濱野、松永らは²⁾、工業高専の授業句会の実践から、学生は俳句世界で客観的に自己や他者を認識している、クラスメートに対して新しい見方を発見したり（他者認識の多様化）、そして俳句を通じて共感していることを報告している。

それらの報告を参考にしてインターネット上でN e t 句会を企画する構想について少し述べる。N e t 句会を構想する上で考慮すべき点は、授業句会で学生や生徒が感じた人間関係の確かさをN e t 句会の参加者が感じるようにするにはどのようなすれば良いのかを考えることである。本稿文では、ネット句会の構築と運営に有用な情報となると考えられる工業高専における授業句会の結果を述べている。そしてその経験をもとにしたN e

t 句会の構想を述べている。

2 授業句会

授業句会の実践スケジュールと学習者の意識について詳細に述べる。

授業句会の目標は、学習者の文化観、価値観、美意識にもとづいた創作と自己表現、自己認識や他者の認識（学習者間の関係理解）であり、授業形態は通常の俳句句会と似ている。

授業句会の実践は、筆者の一人が担当している国語のなかで自作教材を使って文章産出の基礎に絞った授業を行っている一部である。全体を2コマ続きの授業とし、1コマ目（100分）は、指導者が、句会実施の注意を行ったあと、吟行、作句、投句を行い、それらの各活動に関する記述式のアンケート1を実施する。次の授業に投句の一覧表配布、選句、披講、合評を行い、それらの活動に関する記述式のアンケート2を実施し、アンケート1とアンケート2の回答をもとにして多肢選択式の最終アンケートで学習者の内的状況を調査した。

2・1 授業句会で期待する学習者の内的活動

授業句会における学習者は、自然に直面した感動やそのイメージを、授業の制約、授業への態度、俳句に関する知識などを加味して自己の内面で繰り返し推敲し、自己をコントロールして創造的に作句活動を行うと考えられる。そして投句をする。投句をまとめた一覧表が配布されればそれを概観し、選句を行い、合評に臨む。その場面での学習者は、①自然を素材として自己を客体化した句を通して自己を認識する、②自己の句と他者の句を比較し自然に対する情景を共有する、③見落としていた自然に対する新しい発見をする、④他者の句に共感する、そして⑤句世界での関係を知ることによる他者への認識を意識するなどの内的活動を行っていると考えられる。その意識の断片がアンケート1やアンケート2に記述されていると考え、それらを教師が読みとって最終アンケートを作成した。

2・2 授業の形態

図1は、学習者の活動を観察できる設定した授業句会の形式である。その詳細を以下に示す。

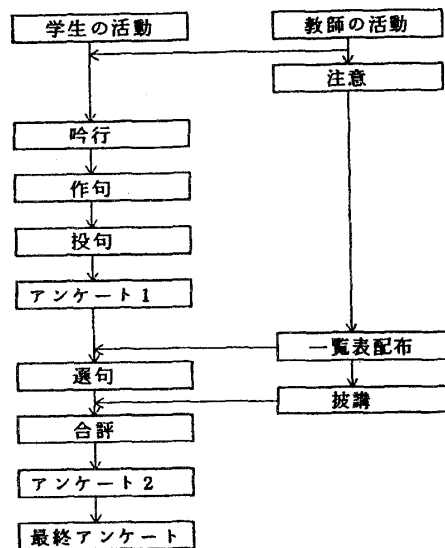


図1 授業句会のスケジュール

2・3 吟行俳句集計システム

今回は、学習者システムとして投句機能（学番、名前、投句句）と指導者システムとして一覧表作成機能（投句の一覧表作成、名前ありとなし）を作成した。この機能により瞬時に一覧表が作成できる。

3 授業実践

平成9年度の4年生の国語授業の一部として実施した。アンケートの集計結果は以下のようなものである。

最終アンケートの集計結果によれば学習者は、個々の認識をもとに作句していると考えられる。吟行に出ることによって普段気づかない何気ない物に感動し、作句イメージを高めて、イメージを表現するためにピッタリの言葉が浮かばない、言葉がうまくつながらない、言葉が俳句の制約にあわせられないなどの困難点を俳句知識や知ってる句を参照して調整し、自己の感動と句の情景が近づくように何回も工夫していることが知られる。

学習者は、俳句世界で客観的に自己や他者を認識している。図1のスケジュールにしたがって自然と向き合い俳句を作り投句し、一覧表や合評によって他の句を参照して自分が自然と向き合ったときに見落としていたものを発見する。また図2のように俳句を通してともに吟行したクラスメー

トに対して新しい見方を発見したり（他者認識の多様化）、俳句を通じて共感している。

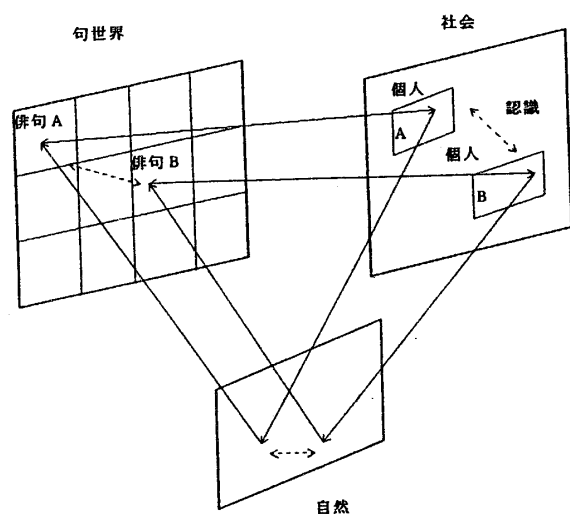


図2 俳句を通した学習者の世界

このように自己を客観的に観察する自己照射の道具として活用していることがわかる。

授業句会に対する最終アンケートにおいても、感動を俳句形式に合わせるのは難しい、他の人に見られることに緊張感を感じる、選句で評価されるかいなかで期待や不安が入り交じるなどの回答が返ってきているものの、ほとんど全員の学習者（93.1%）が新しい授業形態として授業句会を強く支持している。

最終アンケート結果から授業句会がコミュニケーションを豊かにするという点で期待以上の評価を得ていることを示されている。

4 情報共有型Net句会の構想

前章の授業句会における学習者の活動や意識を見ると、適切に運用すればNet句会はコミュニケーションを豊かにし、コミュニケーションの基礎となる他者存在や共感を確認する新しい素材として機能する可能性があると考えられる。そこで授業句会をベースモデルとしてインターネット上のNet句会の構想について述べる。図1に示した授業句会のスケジュールは、多少の変更を加えるだけで図3に示すように無理なく利用すること

ができると考えられる。

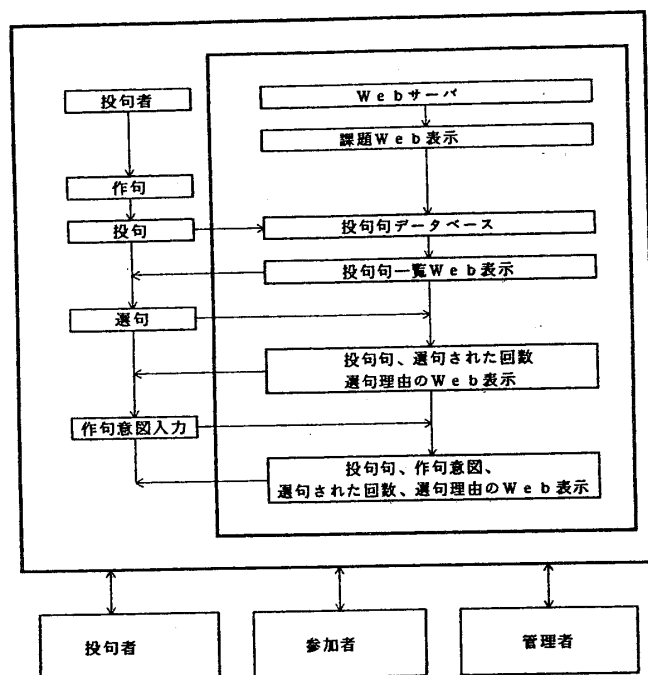


図3 Net句会の構想

Net句会の特徴は、授業句会と同じく投句者参加型で、投句情報はWebの閲覧者全員が共有し、現実社会における師匠や選者役はいないが、Webページを維持し管理し投句者と読み手を仲介するする管理者がいることである。しかし授業句会においては先生の存在は隠れていたが、Net句会ではコミュニケーション推進者としての管理者の役割が重要になる。新聞や雑誌や放送の投句がうまく機能しているのは、主催者や選者の存在の確かさや豊かさが、投句者と読者の関係の不確かさを補っていると考えられる。Net句会の管理者にはこの視点と役割が重要となるであろう。

5・1 Webページ管理者の役割

Webページ管理者は個人でも役割を分担したグループでもさしつかえない。Webページ管理者は、Net句会の運営規約の作成と必要に応じた改訂、Webページのセキュリティと投句者のプライバシー保護、そして投句者の著作権の確保などWebの管理的役割を行う。そしてNet句

会の進行役でもある。例えば作句課題の選定、投句期間、選句期間、Web掲示期間などのスケジュールを立案し実施する。また句会のリードとして、肉声のように十分に伝わらない作句者や記述者の心情を補ったり代弁する仲介者の役割をたす。Webページという特性を生かすと、Web管理者は、文だけでなく静止画、動画、または音など多様なメディア表現を取り入れた作句課題を企画することもできる。それがNet句会の特色でもある。

5・2 Webサーバシステムの機能

Webサーバシステムの機能は以下のようである。

- ① 投句句管理
投句句データベース管理
- ② 投句句のWeb表示
- ③ 選句管理
投句者だけが1回行い選句理由も記入する
- ④ 投句句、選句された回数、選句理由のWeb表示
- ⑤ 作句者の作句意図入力管理
- ⑥ 投句句、作句意図、選句された回数、選句理由のWeb表示
- ⑦ 投句記録と投句句の認証
投句者の著作権を確保する。
- ⑧ 電子掲示板
投句者だけでなくWeb訪問者の感想を収集し表示する。
- ⑨ 作句者やWeb記述者の心情を補ったり代弁する管理者コメント表示。

6 おわりに

Net句会を構想するときに留意すべきことを授業句会の実施内容から考察した。授業句会の学習者は、吟行に出ることによって普段気づかない何気ない物に感動し、自己の感動と句の情景が近づくように何回も工夫していることが知られる。学習者は、自然と向き合い俳句を作り投句し、一覧表や合評によって他の句を参照して自分が自然と向き合ったときに見落としていたものを発見したり、俳句を通してともに吟行したクラスメートに対して新しい見方を発見したり共感している。このように授業句会がコミュニケーションを豊かにするという点で期待以上の評価を得ていること

を示されている。それらはネット句会の構築と運営に有用な情報をもたらしたと考える。

授業句会で学生や生徒が感じた人間関係の確かさをNet句会の参加者が感じるようにするにはどのようにシステムを構築し、管理者が運営すれば良いのかを考察した。今後の課題は実践によってNet句会のねらいを確認することがである。ネットワーク上の人間関係の確かさを高めていくことはNet句会だけでなくネットワークコミュニケーション全般に関わる大きな問題であると考えられるため実践による検証は重要であろう。

参考文献

- 1) 須曾野仁志、下村勉：中学校「情報基礎」における「芭蕉データベース」の作成と活用による情報学習の実践と評価、日本科学教育学会20周年記念論文集、pp.313-323、1996
- 2) 濱野正美、松永公廣：授業句会における学習者の思考活動プロセスに関する調査研究、第6回情報教育研究発表大会資料、pp.137-146、1998